

## グローバルズム・ナショナリズム・ローカリズムの現在と SFC 生の未来

- 田島・鄭・山本研究会合同発表会 -

慶應義塾大学 政策・メディア研究科

GRプログラム所属 修士課程2年 羅陽

luoyang@sfc.keio.ac.jp

### 1、はじめに

グローバル化が進展する昨今において、ナショナリズム・ローカリズムの進行により政府・企業・社会団体などのアクターの役割・機能に変革が発生し、それに伴い都市貧困、経済開発、所得格差、政治改革、国際紛争などの課題が世界的に噴出している。

本活動はこれらの世界的な課題に着目し、政策・メディア研究科の各プロジェクトの専門領域に加え、プロジェクトに跨る合同発表会を行うことにより、課題を多角的に把握し、SFCらしい分野融合的な解決方法を探る。

### 2、目的

本活動は、グローバル化に伴い世界各地で発生している各種の課題を取り上げ、SFC 大学院生・学部生の個人研究発表・質疑討論に基づき、異分野の研究者の切磋琢磨を通して、新しい課題に対して分野融合的な手法を用いて問題解決を目指す。

### 3、活動概要

#### 開催場所

熱海温泉 志ほみや旅館

- 〒413-0005 静岡県熱海市春日町 1-2
- T E L 0557-81-3651
- web サイト (<http://www.shihomiya.co.jp/>)

#### 活動内容

主な活動内容は、本活動の目的に即し、三つの研究会の大学院生・学部生によるそれぞれの領域における個人研究発表を中心に実施した。参加者は教員も含め 17 人おり、発表は質疑応答も含め一人 30 分で行われた。事前に提出された発表資料を基に、政治 経済 環境 市民社会 民族問題 国際協力などの分野を中心に発表を実施し、参加者間で活発な議論を行った。

#### 参加団体

・政策・メディア研究科 大学院生

名前	所属	2/8	2/9
笠井賢紀	政メ修士課程2年		
羅陽	政メ修士課程2年		
幸崎雪玲	政メ修士課程2年		
呉昊霞	政メ修士課程1年		
呉夢珊	政メ修士課程1年		
陳実	政メ修士課程2年		
李美正	政メ修士課程1年		
	計	7	7

・総合政策学部・環境情報学部 学部生

名前	所属	2/8	2/9
多田雅美	総合政策学部		
高山 徳彦	総合政策学部		
柴崎真理子	環境情報学部		
畑佐 憲	総合政策学部		
高橋怜奈	総合政策学部		
宋寿蓮	総合政策学部		
	計	6	6

・国際交流基金 SFC 研究員

名前	所属	2/8	2/9
宮笠り	SFC 研究員		
	計	1	1

・教員

名前	所属	2/8	2/9
山本純一	環境情報・政メ(教員)		
田島英一	総合政策学部(教員)		
鄭浩瀾	総合政策学部(教員)		
	計	3	3

総計		17 名	
----	--	------	--

## 発表順番

### 1、前半部分（2月8日13：00～15：30）

13：00～13：30 多田雅美

（文化大革命と革命バレエ 統制された芸術の価値）

13：30～14：00 宋寿蓮

（2008年のチベット騒動とは何だったのか）

14：00～14：30 呉ミン霞

（中国大衆ナショナリズムの勃興とメディアの役割）

14：30～15：00 高橋怜奈

（馬英九総統誕生 - 何が選挙の勝敗を分けたのか）

15：00～15：30 呉夢サン

（チベット開発・援助と民族問題）

前半小結：

前半の部分は政治問題、ナショナリズム、民族問題を中心に、5名の発表者は発表を実施した。発表の後、参加者の間で、発表テーマを中心に多様な視点から質疑・応答を行った。その上で、教員の方から総評をして頂き、発表者それぞれに対して有意義なコメントをして頂いた。

### 2、後半部分（2月8日15：45～18：15）

15：45～16：15 陳実

（ネットワーク時代における中国公共領域の一考察）

16：15～16：45 高山 徳彦

（中国における環境問題から見えるもの）

16：45～17：15 李美正

（韓国における東南アジア移住労働者の流入と社会資本）

17：15～17：45 畑佐 憲

（東アジア共同体と21世紀の日本）

17：45～18：15 柴崎真理子

（中国における日本企業の人事管理の問題と日本）

後半小結：

15分の時間をはさんで15：45分より後半の発表会を始めた。前半のテーマとは違い、後半の部分は経済問題、市民社会、国際協力、環境問題などのテーマを中心に発表を行った。

発表の後、発表テーマをめぐり、活発な討論を行い、発表者にとって今まで行ってきた研究分野以外の領域に触れることができ、個人研究に役に立つ参考となった。

### 4、活動成果と今後の展望

本活動の一番大きな成果として、それぞれ異なる研究室の学生同士が刺激しあえる有意義な場を提供し、研究者同士の活発な意見交換を行うことにより、今まで行ってきた研究分野以外の領域に触れることができ、学生の学術視野を広めることができたという点が挙げられる。

学生の個人研究で取り扱われる様々な研究事例を通して、近年盛んになってきたグローバリズムの問題やナショナリズムの問題・ローカリズムの問題など様々な課題とそれぞれの関係性を再認識し、それを踏まえた上で、先行研究や他の研究者との比較を行いながら、個人研究の意義と新規性を発見することができた。

本活動では多数の研究会にまたがる共同発表会を行うことにより、参加者間の問題意識や知識を共有することを実現した。今後の展望としては、今回の成果を踏まえた上、より実証的な視点から、現地現場でそれぞれの研究仮説を検証していきたい。研究対象へのフィールドワークを通して、今回の共同研究成果を現地現場で検証し、それを学校での理論研究と照らし合わせながら、確実な研究成果をあげていきたいと思われる。

### 5、謝辞

本活動を実施するに当たり、ご協力いただいた3名の先生方、幹事の方々、資料印刷・プロジェクター使用をお手伝い頂いた方々、そしてご参加いただいた方々をはじめ、湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」のご支援に改めて感謝致します。

### 6、主要参考資料

野村亨,山本純一編著『グローバル・ナショナル・ローカルの現在』（慶應義塾大学出版会2006年）